

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

＜大学＞

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	社会学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生のための社会調査・研究および社会心理実験スペースを増設する	→社会調査・研究スペースの新設、社会心理実験スペースの新設	C	C	B	A	A
2. すべての大人数講義に、TA・LA・SAなどの授業補助者を導入する制度を検討し、全学的に提案する	→TA・LA・SA制度の再構築に向けた提案	C	B	B	B	A
3. 共同研究室の機能を学部教育中心に再構築する	→学部学生における共同研究室の認知および利用者数の向上	C	C	B	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 前年度に部分的完成をみた新校舎が、今年度から全面運用に入った。前年度から運用開始していた社会心理学実験スペースに続き、鈴木謙介准教授を中心に企画・構想された共同学習室が運用を開始した。共同学習室はピアグループによるアクティヴ・ラーニングのための場所として構想されている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 社会心理学実験スペースに続き共同学習室が開設されたことで、目標は達成された。共同実験・学習のための設備が増設されたことは明確な効果である。課題として、運用開始直後ということもあり、共同学習室の利用がやや低調であることが挙げられる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 共同学習室につき、さらなる告知や、利用方法の例示による学生の誘導などが、有効な改善策となり得る。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 前年度から開始された、社会学部開講多人数講義科目へのラーニング・アシスタント(L. A./Learning Assistant)〈授業運営補助〉事業が継続されている。L.A.を積極的に活用し、講師が希望する一定規模以上の科目にはL.A.をつけられた。L.A.に対しては業務後の連絡を回覧するとともに、学期中間に業務の共有や見直しのためのミーティングをおこなった。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学部内での目標は、制度の完成をもってほぼ到達された。多人数講義での資料の配布・回収や学生のコントロールについて、大きな効果が見られた。改善点として、募集人員がわずかに充足せず、一部の授業にL.A.が回せなかったことがある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 特に非常勤講師の多人数授業について、L.A.希望者を確保するための方途が求められる。	☆
		その他	☆
目標3	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 今年度より、共同研究室は共同学習室へと再編された。教務補佐の職務として、前年度から続くL.A.およびP.S.の活動の取りまとめに加え、共同学習室の運営、同室での新入学生を対象とした課外学習プログラムの作成・運営が加えられた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 共同学習室の運用開始をもって、目標は達成された。効果として、L.A.およびP.S.のシステムが前年度に引き続き稼働したこと、また共同学習室でのピア・ラーニングが実現したことが挙げられる。課題として、運用開始直後ということもあり共同学習室の利用がやや低調であることが挙げられる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 共同学習室につき、さらなる告知や、利用方法の例示による学生の誘導などが、有効な改善策となり得る。	☆
		その他	☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【社会学部】			単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、授業補佐の採用数	教学補佐	人	18	18	21	20	21	他に、社会福祉実習助手4 (2005、2006、2007年度) COE研究補佐3 (2005、2006年度)
		実験実習指導補佐・教務補佐	人	3	3	2	3	3	
		授業補佐	人	0	0	0	17	7	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	12.4	13.8	13.5	13.5	13.2	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	11.5	13.6	13.3	12.2	12.3	
		講師	時間	-	-	-	8.0	-	
		助教	時間	8.6	11.4	6.9	-	9.0	